

新宿通信

NO. 85

- 2023 大学合格者数
- 今年度の進路指導部
- 赤本ルール
- 祝！78 回生

「学業との両立とはなんだろう」

校長 藪田 憲正

歌舞伎を観るようになって10年以上になる。ほぼ毎月観に行っている。きっかけは副校長として勤めていた学校の生徒が出演するのを応援しに観に行くようになったことだ。彼の舞台はほぼすべて観に行っている。今年の3月には京都の南座まで観に行った。完全に追っかけになっている。彼の芸をとおして歌舞伎自体にも惹かれ、いろいろな情報を仕入れている。いい趣味が持てたと内心うれしい。

彼（仮にA君としよう）は、一般家庭に生まれた。歌舞伎役者の世界は世襲のように、歌舞伎役者の家の出身でないと中心的な役者にはなれない。しかしA君はそうではない。幼少のころ、歌舞伎好きのお母さんに連れられて歌舞伎を観て以来、歌舞伎役者になりたくて仕方がなかったようで歌舞伎のまねごとをしていたようだ。そんな姿がA君の師匠であり現在の養父の目にとまった。師匠はそのうちあきらめようと思いつつも「楽屋に遊びにいらっしやい」と言ったところ、A君は毎週末、師匠の楽屋に行き、歌舞伎の世界に浸って行ったとのことだ。

私がA君と出会ったのは、彼が中学1年生として入学してきた時だ。彼はそのとき既に生きる道を決めていた。進学校であったその学校で、歌舞伎と勉学の両立は大変だったろう。中学生のA君は朝1時間目の授業に出て、国立劇場の公演に出演し、出番のあと学校に戻って授業や補習に出るといったこともあった。舞台に出た後、定期考査を午後6時過ぎまで受けていたこともあった。歌舞伎の公演は、普通1カ月間毎日続く。そこへの出演となれば、土日もなく毎日3時間は歌舞伎座なり、国立劇場に在ることになる。京都の南座への出演となれば1カ月間ホテル住まいだ。大変だったろう。

当時のことを、大人になったA君に尋ねたことがある。A君は「確かに大変でした。でも授業に出ると歌舞伎の舞台に出るとは、まったく違うことで、歌舞伎は大好きですし、1日でもいい切り替えができました。」と懐かしそうにしながら笑顔で答えてくれた。

私がA君の舞台に足しげく通うようになったのは、A君の芸のすばらしさ、美しさのせいだけではない。好きな歌舞伎については目を輝かせて語り、学校にも可能な限り通う。何事にも全力で取り組む姿に惹かれたからである。中学生ながらすごいなと思っていた私にとって、彼が「いい切り替えができました。」というのは驚くべき考え方であった。

新宿高校の皆さんはどうであろうか。授業中、多くの皆さんは真剣なまなざしで授業に取り組んでいる。放課後になれば校内のいたるところで部活動に楽しげに取り組む姿がある。どちらも青春真ただ中（ちょっと古い言い方だが）の皆さんにとって大切なものであろう。そして、両立に悩むことも多いかもしれない。だからと言ってどっちつかずになってはいけない。どちらかのせいにしてはいけない。

A君は、高校卒業まで学業と歌舞伎を両立した後、大学に進学した。そして、いまや歌舞伎役者の中でも大きなお役をもらえる役者に成長した。ラジオの歌舞伎に関する番組のメインパーソナリティとしても出演している。

○2023 大学合格者数 (現役・既卒) 4/6 現在

主な国公立大学等			主な私立大学 (延べ)		
	現役	既卒		現役	既卒
北海道大	7	0	青山学院大	58	0
東北大	6	0	学習院大	15	0
茨城大	4	0	北里大	11	0
筑波大	4	0	慶應義塾大	27	4
群馬大	2	0	國學院大	11	0
千葉大	14	1	駒澤大	12	0
埼玉大	3	0	芝浦工大	17	4
お茶の水女子大	4	0	上智大	30	4
電気通信大	2	0	成蹊大	19	0
東京大	1	0	成城大	17	0
東京医科歯科大	1	0	専修大	5	1
東京芸術大	0	1	中央大	70	0
東京外語大	7	0	津田塾大	8	0
東京海洋大	2	0	東京女子大	11	0
東京学芸大	7	0	東京農業大	17	0
東京工業大	3	2	東京女子医大	1	0
東京農工大	8	0	東京理科大	48	8
一橋大	5	0	東京電機大	10	0
東京都立大	6	0	東洋大	39	2
横浜国立大	5	1	日本大	52	1
横浜市立大	1	0	日本女子大	27	0
新潟大	0	1	法政大	80	5
信州大	1	1	東京都市大	6	0
名古屋大	0	1	武蔵大	9	0
京都大	1	0	武蔵野大	10	0
京都工芸繊維大	1	1	明治大	136	4
大阪大	1	0	明治学院大	24	0
神戸大	1	0	立教大	49	2
九州大	0	1	早稲田大	64	9
その他	12	0	その他	107	3
計	109	10	計	990	47
	119			1037	

○今年度の進路指導部 ★進路指導室常駐

進路指導室は3階にあります。進路に関わる相談など、用事がある時は訪ねてください。3年生に限らず、1年生・2年生もお気軽にどうぞ。

また、進路指導室の隣が「進路指導資料室(赤本部屋)」です。ここには、廊下に置ききれなかった赤本や各大学のパンフレットなどの資料が置いてあります。

進路指導室前の廊下には、オープンキャンパスや職業体験・大学体験などの案内を掲示しています。自分自身に必要な情報を積極的に入手しましょう。好奇心のアンテナを常に働かせてください。

進路部 専任	大谷(主任・日本史)★ 松本葉子(副主任・数学) 加藤(数学)★ 日比野(数学) 皆川(化学) 寺島(数学)	
	1学年	竹内(物理) 横田(世界史)
2学年	新妻(英語) 長谷川聡(公民)★	
3学年	飯島(公民)★ 川原井(化学)	

○赤本ルール

進路指導室前の廊下と隣の資料室に赤本が置いてあります。赤本とは過去の入試問題を大学ごとに一冊の本にしたものです。

使い方

今の時期は、それぞれの大学の出題傾向や難易度をチェックするのに使います。時間を計ってやってみても、今はまだ合格点には届かないかもしれませんが、傾向を知り、対策を講じるために使ってください。入試直前期には文字通り、自分の力試しに活用します。

ルール

廊下に置いてある貸出簿に必要事項を記入すれば借りられます。冊数や期間(1週間が目安)は特に制限していませんが、みんなが使うものですから常識の範囲内でお願いします。12月になると冊数、貸出期間を制限します。改めて連絡します。

祝！入学 78 回生

4月7日(金)新宿高校第78回入学式が挙行され、新入生319名が入学しました。10日(月)のセミナー講習で新宿高生としての心構えを学びました。

11日(火)午後からは授業が始まりました。そこでアドバイスです。とにかく最初が肝心です。まずは、5月の中間考査を意識して準備をしましょう。

その1 勉強する習慣をつけよう！

毎日予習！復習！

高校の授業で驚くことは各科目の専門性とその進み具合でしょう。特に授業の進度は中学校とは比較になりません。今日習ったことは翌日には既に皆が完全に理解したのものとして先へ進みます。毎日の予習、復習は欠かせません。

その2 定期考査は100点を目指そう！

定期考査は出題範囲が決まっています。ほとんどが授業で習ったことです。100点を取れないことはないのです。平均点以上とすることで満足せず、是非満点を目指して取り組みましょう！

目標は「全員が満点」。

その3 先生に質問しよう！

授業でわからないところは、積極的に担当の先生に質問しましょう。教員室の座席は教科ごとに並んでいます。担当の先生が不在でも、その近くの席の先生に尋ねてみましょう。授業以外のわからないことは担任の先生に相談しましょう。

自分から動き、声を出すことが肝要です。

先輩からの言葉

自分を信じて

人形浄瑠璃文楽座太夫

49 回生 佐々木 靖孝

私の仕事は人形浄瑠璃文楽の太夫。

文楽は声を出して物語を伝える太夫と太棹三味線を弾く三味線弾きが二人一緒になって義太夫節を演奏し、それに合わせて一体の人形を三人の人間が操る独特な遣い方で人形遣いがお芝居をする日本の古典芸能で2003年には世界無形文化遺産に指定されている。

文楽の太夫になろうと思った一番の要因は亡き師匠の舞台に物凄く惹き込まれたから。ただ、師匠の舞台に惹かれても誰もが仕事としてそれを選ぶわけではなく、当初は私も文楽は大好きな物の一つでしかなかった。

進路選択、仕事選びのきっかけや取っ掛かりは、意外とちょっとしたことや、そうしたくなる仕組みが用意されていたりするのかも知れない。

例えば「限定」や「期限」、「条件」などが示されて、そこに自分が当てはまると、それに乗ってしまうこと。今月中は店内のスーツ二着目半額とか、県民限定の県内旅行支援とか。

熟考した上で行動をして、当然の結果として今ある仕事を選んでいるというような場合も沢山あると思うが、私の場合、文楽研修生には原則23歳までしか応募出来ないという制限に突き動かされた気がする。大学へは一浪していたので、四回生の時点で23歳になっていたのだ。

だが、応募をしても、合格して、更に続けて行くのは大変で、研修生の時も、プロになった後も何度も

「文楽の太夫」を選んだことを後悔した事がある。技芸を会得するのが難しかったり、どこにでもあることかも知れないが人間関係に悩んだり、家族を持って初めて、経済的にはあまり余裕のない職業なのだと思います。

続けていくのはどこの世界でも同じで、大変な事だと思う。

私の日常は人形浄瑠璃文楽の技芸を継承して、なおかつお客様に楽しんで頂けるように日々努力をすること。

技術的な稽古は勿論のこと、日常生活全般に、芸に通じる事がちりばめられていると教わった。義太夫節には沢山の人物が出てくるが、その人物の心情を実体験として感じることは出来ない。自分自身の人生や、世の中の小さな出来事から大きなものまで、あらゆる事を通じて、感性を研ぎ、登場人物の心情に活かすしかない。

そうして稽古場や普段の生活で蓄えた物を舞台で出しきる事が一つの区切りだけれど、この舞台の時間が一番苦しくて、また楽しいと思う。

舞台に出たら一曲の終わりまで止まることは出来ない。長いものだと80分近くある(私はまだまだそこまでの場面をやらせては貰えないが)。三味線の一撥で曲が始まると、教わったことや身に付けたことは勿論、今現在身に付けたいことも試しながら、物語をお客様に伝えていく。

力が入りすぎて声が伸びなかったり、息の吸い方を間違えて、息が足りなくなりそうになったり、似ている文章があって、だいぶ先の文章に飛びそうになったりしながらも、なんとかその都度修正して、最後まで語りきらないといけない。

高音がこの後待っていたり、一息で語らないといけない長い節が待っていたり、稽古でなかなか修正出来なかった箇所が控えていても、失敗を恐れずに自分を信じるだけで実は乗り越えられた事が沢山ある。

昔から思うが、義太夫とフィギュアスケートは似ている。何があっても最後まで止まらない。小さなミスでフィギュアの選手もしている筈だけれど、最後まで様々な技にチャレンジしていけるのはきっと自分を信じているから。義太夫も、ミスを重ねながらもその都度立ち直って、最後までお客様に登場人物の気持ちを伝えていく、自分を信じて。

私は皆さんに自分自身を信じて貰いたい。誰も様々な選択をして前に進んでいると思うけれど、そう選択した自分を信じて、諦めないで欲しい、前に進むのを。フィギュアや義太夫節と同じで皆さんの人生はどんどん進んで行く。選択したその先に自分の思いと違った事があればまたそこで選択したらいい。そしてそうやって選択を重ねてきた自分自身を信じて、また一歩進んでください。

(同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)

